

++++++

2023年度 美術科教育学会リサーチフォーラム in 東京

映画『手でふれてみる世界』上映会+岡野晃子監督×大内進氏・茂木一司氏 クロストーク

「ふれる」がひらくインクルーシブな学びの可能性

++++++

【リサーチフォーラム：企画説明】

この度、美術科教育学会インクルーシブ美術教育研究部会主催で、リサーチフォーラムを開催することになりました。

インクルーシブ美術教育研究部会では「社会包摂、共生社会に向けてアート／美術教育はどのように貢献できるのか?」、「アート／美術教育へのアクセシビリティの確立」を大きなテーマとして掲げ、これまでに活動を展開してきています。

本企画では、映画「手でふれてみる世界」の上映（鑑賞）及び専門家らのクロストーク、会場とのディスカッションを通して「視覚優位」のアート教育を「触覚優位」にスイッチすることで広がるインクルーシブな学習環境の可能性を考えたいと思います。

学会員、非学会員問わずご参加いただけますのでぜひ、お誘い合わせの上お申し込みください。

【プログラム概要】

会の前半では、岡野監督によるアフタートークと共に映画『手でふれてみる世界』を上映します。

本作品はイタリア・アンコーナ（マルケ州）にあるオメロ触覚美術館を舞台に、全盲の創設者夫妻 アルド・グラッシーニ、ダニエラ・ボッテゴニを中心に展開するドキュメンタリー映画です。子どもから大人まで、障害のある人もない人も、すべての人に開かれたオメロ触覚美術館は、彫刻作品に手でふれて鑑賞することを可能とし、1993年に創設、1999年には国立の美術館となりました。

岡野監督は、触覚を通した鑑賞体験が、視覚に障害を持つ人だけでなく、晴眼者にとっても新たな気づきと学びを生み出す機会と捉え、「ふれる」鑑賞がもたらす豊かな時間や創設者夫妻を軸に広がるコミュニティの諸相を映像で描きだしています。

会の後半では、アントネッロ・ムーラ 著『イタリアのフルインクルーシブ教育—障害児の学校を無くした教育の歴史・課題・理念』の監修・翻訳者である大内進氏、『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』編著者の茂木一司氏をお迎えし、フルインクルージョン教育を実現しているイタリアの事例や、視覚障害児・者のアート教育へのアクセシビリティの事例をもとに、「視覚優位」の活動から解放された美術館における活動はインクルーシブな

学習環境デザインにどのような可能性をもたらすのかを岡野監督とのクロストークで掘り下げていきます。

登壇者：岡野晃子氏（映画『手でふれてみる世界』監督・ヴァンジ彫刻庭園美術館副館長）
大内進氏（国?特別?援教育総合研究所名誉所員）
茂木一司氏（跡見学園女子大学）

【開催概要】

日時：2023年7月8日（土）13:30-16:30
会場：明治学院大学白金キャンパス 1101教室（本館）

アクセシビリティ：

バリアフリー字幕・音声ガイドあり

参加費：無料

定員：150名

参加者：どなたでもご参加いただけます

お申込み：開催サイト内の Peatix より受け付けます。

<https://www.artedu.jp/researchforum>

申込期限：2023年7月6日（木）20:00まで

お問合せ：research.inclusiveartedu(アットマーク)gmail.com（事務局：手塚）
※(アットマーク) を@に変更してお送りください。

美術科教育学会リサーチフォーラム情報サイト

<https://www.artedu.jp/researchforum>
(サイトには交通アクセスなどの情報リンクもあります)